

STAGE+を楽しむ(325)(HP 収載)
—プレイエルで弾くショパンの 24 の前奏曲—

1. 始めに

前報(324)に引き続き、STAGE+のシフがプレイエルのピアノで弾く、ショパンの 24 の前奏曲の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(324)に引き続きシフがプレイエルのピアノで弾く、ショパンの 24 の前奏曲を選びました。

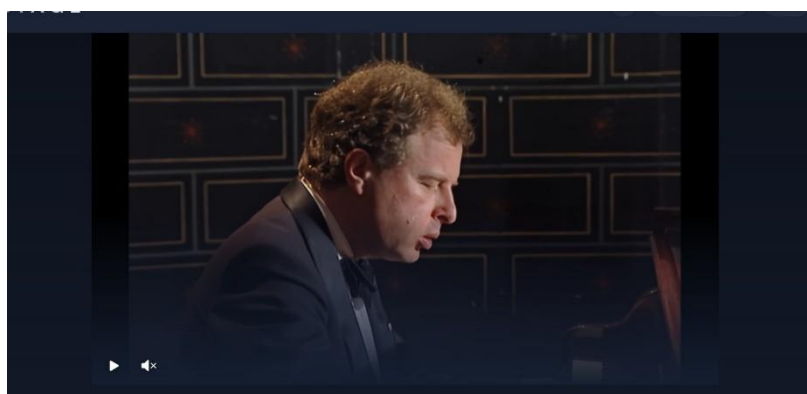
シフがプレイエルのピアノで弾く、ショパンの 24 の前奏曲
フランス国立高等演劇学校 (パリ)

収録日: 1998 年 1 月 1 日

2025 年に第 36 回高松宮殿下記念世界文化賞・音楽部門を受賞して会見のために来日し、翌年 3 月の日本ツアー開催も発表したアンドラーシュ・シフ。主に J.S.バッハやモーツァルト、ベートーヴェン、シューマンなどの独逸のレパートリーを軸にキャリアを築いてきた巨匠による、ショパンの「24 の前奏曲」をお届けします。使用楽器は 1860 年製プレイエル・グランドピアノで、ショパン自身が頻繁に演奏会を開いていたパリの古楽院で収録された、見応えのある美しい映像です。

ソリスト:

アンドラーシュ・シフ (ピアノ)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用して

います。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力 of 修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。

また、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

まず、映像を見ているとプレイエルではなく Fabbrini という文字が見えます。ネットで検索すると、どうやらスタンウェイと同様、Fabbrini の工房でチューニングされたプレイエルのようです。

したがってオリジナルのプレイエルではないようですが、音は近代のピアノと違ってほのぼのとした古典的な音色です。

そういったピアノでのシフが弾くショパンの 24 の前奏曲は、落ち着いた音で格別の趣があります。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、シフがプレイエ

ルのピアノで弾く、ショパンの 24 の前奏曲のしみじみとした味わいが伝わってきました。

以上